

4 飯田行蔵書簡(山田市之允宛)

打続不得拝青候へとも
愈御安康被為在、先達而ハ
一寸御帰国被成候間御□
途相成候御様子、其後
不相替御無異御着都
被成御尽力之御事奉
推賀候、小生儀先達而方
少々不快罷居、御帰国
之節も不得登門御無
沙汰ニ打過、恐縮罷居申候、
陳ハ、先日御頼仕候様舍弟三郎
出都之儀何卒可然御配慮
被成遣候様奉希候、尚又
数々御願申上兼候得共、愚兄驥一郎
洋学修行之為洋行
之儀、先年来思立居候へとも、
今以宿志相遂候事出来
不申ニ付、当節ハ老生へ頻ニ
相迫出都之儀なり共出来
候様申出、両三年先御地にて
致修行居候中にハよき折も
有之、洋行も出来可申哉、たとへ
其儀不相叶候とも洋学修
行且々なりとも出来可申哉と
切思相含其行相運候様
追々心配仕候へとも、何分他国
行之事も次第六ヶ敷相成

中々容易ニ相運候目途
無之、大ニ苦慮罷居候ニ付、何
卒御賢策を以出都修
行相成候様御手数被成遣候ハ、
誠ニ海岳難有奉存候、当
分ハ学僕にてもよろしく片時も
早き方相願居申候ニ付、とふか
御配慮にて兎も角も
御地へ御呼寄せ之儀出来
申間敷哉、相成儀ニ候へハ、可然
早々御指揮被成遣候様偏ニ
奉懇願候、実ニ氣忤千
万之事申出奉恐入候悪
からず御海容奉祈り候、
右御願義愚披奉拝
御申上候、其中時氣
御自愛奉專謝候、
頓首敬白
十二月廿一日 行蔵拜
再陳
公事御苦慮之中
御厄害難申出候へ共、何分
本文之儀可然御配慮被成遣候様
幾重にも奉懇願候、以上
市之允様
尊下